
彼女の言葉

どんぐり

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

彼女の言葉

【Nコード】

N6737Y

【作者名】

どんぐり

【あらすじ】

「俺」の自殺を止めた、たんなる通りすがりであるはずの彼女は、こんなことをいった。

あなたは「死にたい死にたい」ってそればかり。まあ、若いからしょうがないのかな？ 死にたがるのも若者の特権よ。存分に死にたがりなさい。でも、本当に死ぬのはダメ。

どうして死んだダメなのかって？ 自分の体をどうしようが自分の勝手だろうって？

それはあなたの勘違い。だって、あなたの体はあなただけのものじゃないもの。ご両親のもの、とかでもないけどね。

今はたぶん言ってもわからないでしょうし、言ってもなんの意味もないと思うけど、一応言っとく。

あなたはこの世界に生かされている。あなただけの力で、生きていくことなんて、一秒だって出来はしない。だから、あなたの体はあなただけのものじゃない。完璧に、あなたの自由にしていいものじゃない。

お前はどこかの宗教家か、って？ そんなくだらない理由を自殺を否定するのか、って？

私は宗教家じゃないし、こんな理由であなたの自殺を止めたわけじゃない。個人的には気に入ってるけど、こんなのは、一般的に自殺をしてはいけない理由として言われていることのひとつよ。言っても意味無いだろうって言うておいたでしょ？ 一応確認よ、確認。

じゃあ、どうして助けたのかって？

そんなの簡単。助けたかったからよ。もう少し言うなら、目の前で人が死ぬのは嫌だったから。偶然通りかかっただけとしてもね。

自分の都合か、って？ 目の前で人が死んで、将来あの時助けていればよかったと後悔するのが嫌で、自分のために助けたのか、って？ そんなの偽善者だ、って？

ええ、そうよ。私は誰のためでもなく、自分のためにあなたを助けた。私は聖人様なんかじゃない。偽善者で十分。

そんな自分の都合何かで人を助けるな？ 苦しみも知らないでくせに？

そんなもの、知らない。でも、あなたに私を責める資格なんてないわね。あなただって、自分の都合だけで死のうとしたんでしょ？ 死にたいから死ぬ。他のことなんてお構いなし。自分が良ければそれでいい……。そうなんでしょ？

だったら、私も同じことをいう権利がある。私は自分の都合で人を助ける。助けたいから、助ける。あなたの都合なんてお構いなし。私がそれで満足するならそれでいい。私とあなた、何が違う？

私の身勝手な行動の結果、あなたがどんな苦しみを味わうかなんて、知ったことではない。あなただって、あなたの死を傍観していた私が将来どんな苦しみを味わうかなんて、知ったことではないんでしょ？ おあいこよ。自分勝手に死のうとする人に、他人の行動をとにかくいう資格なんてないの。

……ま、こんな話をしてても意味無いわね。揚げ足取りの様な論理だもの。とにかく、私は目の前で自殺するなんて許さない。

何？ 何か言いたそうね？ 偽善者の次は何かしら？ ブス、アバズレ、雌豚、ビッチ？ 何でもいいわ。好きなだけ私を罵るといい。私はあなたの人生を自分勝手に左右したんだもの。何を言われるのも覚悟してる。これが、私の自由な行動に対する代償というもののよ。

私には、あなたの死なんて他人事？ あなたが死んでも、最初のうち苦しんで、そのうち忘れて何もなかったように生きていく？ それに対して、あなたはこの人生をずっと苦しみながら生きなきゃならないんだから、あなたの意思を優先するべき？

そんなこと、自分で言ってる情けくない？ ただの駄々っ子みたいよ。

私が将来どう思つかなんてわかんないわよ。私が最初のうちだけじゃなく、ずっと抱え込んで苦しむかもしれない。それに、あなただって今の苦しみを忘れて、明るく生きていけるようになるかもしれない。

れない。私はそれが十分あり得ると思ってる。なら、私の意志を優先したっていいでしょう？

ま、こんな議論は不毛よね。何とでも言えるんだから。あなたを論破したくてこんな話してるわけじゃないんだし。

ふう……一人でまくしたてて疲れたわ。あんたも聞いてて疲れたでしょうね。

ま、なんていうか、あんただってせいぜい十七年しか生きてないわけでしょ？ そのたった十七年で、いったい何を見てきたの？ 毎日が学校と家の往復でしかなくて、それ以外の世界なんてまるで知らないのでしょうか？ そんなせまつ苦しい世界しか知らないで、人生の全部をわかったような気になるのは早すぎる。親とか先生とか、あなたと同じように学校と家の往復くらいしかしていない、世間知らずの子供に必要とされなかったって、それはたいした問題じゃないわ。もっと広い世界を見れば、あなたを必要としてくれる人なんていくらでもいる。もちろん、努力してそう思ってもらえるようにならなきゃいけないんだけどね。

とにかくさ、生き残ってしまったんだから、もう一度なんとか生きてみてよ。案外つらい時を過ぎたらなんとかなるもんよ。何であんなに悩んでたんだろう、って自分でも疑問に思うくらいにね。

えーっと、まあ、これで私の説教はお終い。とにかく、あなたが死ぬことは、私が許さない。誰が何と言おうと、私の独断と偏見で、許さない。

（後書き）

読了、感謝です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6737y/>

彼女の言葉

2011年11月20日16時58分発行